

設 計 課 題 「レストラン併用住宅(木造2階建)」

1. 設計条件

- ある地方都市において、夫の退職を機に、夫婦で始めるレストラン併用住宅を計画するものである。
- 計画に当たっては、次の①～④に特に留意する。
- ①レストラン部分と住宅部分は、出入り口を明確に分離し、屋内の1階部分で行き来できるようにする。
- ②レストランの客席スペースは、屋外テラスと直接行き来できるようにする。
- ③住宅部分の1階の各要求室等については、将来の高齢化に備えて、高齢者が使いやすい配置・動線とする。
- ④建築物の耐震性を確保する。

(1) 敷 地

- ア. 形状、道路との関係、方位等は、下図のとおりである。
- イ. 第一種住居地域内にあり、防火・準防火地域の指定はない。
- ウ. 建ぺい率の限度は60%、容積率の限度は200%である。
- エ. 地形は平たんで、道路及び隣地との高低差はなく、地盤は良好である。
- オ. 電気、都市ガス、上水道及び公共下水道は完備している。

(2) 構造及び階数

木造2階建とする。

(3) 延べ面積

必ず「190㎡以上、230㎡以下」とする。

(床面積については、ピロティ、玄関ポーチ、屋外テラス、駐車スペース、駐輪スペース等は算入しないものとする。)

(4) 家族構成

夫婦(夫婦で経営し、夫56歳、妻53歳)、子供2人(女子会社員、男子大学生)

(5) 要求室

下表のすべての室は、必ず指定された設置階に計画する。

設置階	室 名	特 記 事 項	床 面 積	
1 階	レストラン部分	客席スペース	ア. テーブルを設け、計20席以上とする。 イ. レジカウンターを設ける。 ウ. 履物は履き替えないものとする。	30㎡以上
		厨 房		16㎡以上
		食 品 庫		適 宜
		パントリー		
		更衣・休憩室	・夫婦の更衣・休憩等に使う。	4.5㎡以上
		客 用 便 所	ア. 男女別に設け、それぞれに洋式便器及び手洗い器を設ける。 イ. 広さは、男女用それぞれ心々1,200mm×1,500mm以上とする。	適 宜
	住宅部分	玄 関	・下足入れを設ける。	
		居間・食事室・台所	・洋室とし、1室にまとめる。	26㎡以上
		洗 面 所	・洗濯機置き場を設ける。	適 宜
		便 所	・心々1,200mm×1,500mm以上とする。	
(注)住宅部分の1階の廊下の幅は、心々1,200mm以上とする。				
2 階	住宅部分	夫 婦 寝 室	・洋室とし、その他に収納を設ける。	16㎡以上
		予 備 室	ア. 和室とし、床の間及び押入れを設ける。 イ. 客間としても使用する。	適 宜
		子 供 室(1)	・洋室とし、その他に収納を設ける。	9㎡以上
		子 供 室(2)	・洋室とし、その他に収納を設ける。	9㎡以上
		浴 室		3㎡以上
		洗面脱衣室		3㎡以上
		便 所		適 宜
		納 戸		4㎡以上

(6) 屋外施設等

屋外に下表のものを計画する。

屋 外 テ ラ ス	ア. 7㎡以上とし、客席スペースと直接行き来できるようにする。 イ. テーブル(計4席)を設ける。
駐車スペース	・乗用車3台分(客用2台、住宅用1台)を設ける。
駐輪スペース	・自転車5台分を設ける。

2. 要求図書

- a. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する(寸法線は、枠外にはみだして記入してもよい)。
- b. 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規を用いなくてもよい)。
- c. 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(矩計図にあっては、10mm)である。
- d. シックハウス対策のための機械換気設備等は、記入しなくてよいものとする。

要 求 図 書 ()内は縮尺	特 記 事 項
1 階 平 面 図 兼 配 置 図 (1/100)	ア. 敷地境界線と建築物との距離、建築物の主要な寸法を記入する。 イ. 道路から玄関へのアプローチ、屋外テラス、駐車スペース、駐輪スペース、門、塀、植栽等を記入する。 ウ. 室名を記入する。 エ. レストラン部分には、次のものを記入する。 ・客席スペースに、テーブル、いす、レジカウンター ・厨房に、厨房設備機器(流し台・調理台・コンロ台、冷蔵庫等)、配ぜん台、手洗い器 ・客用便所に、洋式便器、手洗い器、手摺 ・パントリーに配ぜん台 ・更衣・休憩室にロッカー オ. 住宅部分には、下足入れ、台所設備機器(流し台・調理台・コンロ台、冷蔵庫等)、洗面台、洗濯機、洋式便器を記入する。 カ. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう(以下同じ)。 キ. 矩計図の切断位置を記入する。
2 階 平 面 図 (1/100)	ア. 建築物の主要な寸法を記入する。 イ. 室名を記入する。 ウ. 浴槽、洗面台、洗濯機、洋式便器を記入する。 エ. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。 オ. 1階の屋根伏図(平家部分がある場合)も記入する。 カ. 矩計図の切断位置を記入する。
2 階 床 伏 図 兼 1 階 小 屋 伏 図 (1/100)	ア. 主要部材(通し柱、1階及び2階の管柱、胴差、2階床梁、 ^{けた} 桁、小屋梁、火打梁、棟木、母屋・小屋 ^{もや} 束)については、凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法(小屋束を除く)を凡例欄に記入する。ただし、主要部材のうち、平角材又は丸太材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。なお、根太及び垂木については、記入しなくてよい。 イ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に明記する。 ウ. 建築物の主要な寸法を記入する。
立 面 図 (1/100)	ア. 南側立面図とする。 イ. 建築物の最高の高さを記入する。
矩 計 図 (1/20)	ア. 切断位置は、1階・2階それぞれの外壁の開口部を含む部分とする。 イ. 作図の範囲は、柱心から1,000mm以上とする。 ウ. 矩計図として支障のない程度であれば、水平方向及び垂直方向の作図上の省略は、行ってもよいものとする。 エ. 主要部の寸法等(床高、天井高、階高、軒高、軒の出、開口部の内法、屋根の勾配)を記入する。 オ. 主要部材(基礎、土台、大引、1階根太、胴差、2階床梁、2階根太、 ^{けた} 桁、小屋梁、母屋、垂木)の名称・断面寸法を記入する。ただし、1階床を土間コンクリートとする場合は、コンクリートの厚さ等を記入する。 カ. 床下換気口(又は、これに代わるもの)の位置・名称を記入する(1階床が木造床組の場合のみ)。 キ. アンカーボルト、羽子板ボルト等の名称・寸法を記入する。 ク. 外気に接する次の部分の断熱・防湿措置を記入する。 ・屋根(小屋裏が外気に通じている場合は、屋根の直下の天井) ・外壁 ・1階床 ・その他必要と思われる部分 ケ. 室名及び内外の主要な部位(屋根、外壁、床、内壁、天井)の仕上材料名を記入する。
面 積 表	ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を記入する。 イ. 建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ. 計算結果は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。
計画の要点等	・次の①～③について、それぞれ簡条書きで具体的に記述する。 ①客席スペースをその配置とした理由 ②外部の動線計画において工夫したこと ③将来の高齢化を想定して工夫したこと

